

# 平成27年度 事業報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(はじめに)

大阪対がん協会は平成25年8月1日付で旧財団法人から公益財団法人に移行した。今回は公益財団法人に移行して3期目、期間は平成27年4月1日から平成28年3月31日までの報告となる。

## 《公益目的事業》

### (公1)普及・啓発活動： 啓発イベント開催・情報発信・がん検診の奨励など

#### 【がんに関する啓発イベント】

##### ▽主催行事

##### ① がん看護セミナー

啓発イベントとして「がん患者の退院から在宅ケアまで」をテーマに10月25日、大阪市北区中之島の朝日新聞社アサコムホールで開き、約100名の参加を得た。基調講演は松浦副会長で演題は「がんの患者さんが退院する時」。第2部のシンポジウムは豊田理事の司会で、「行政」「看護師」「患者・家族」の立場のシンポジストが出演し、治療から緩和ケアへシフトする中間的支援にどのようなことが必要か、また、人生をがんサバイバーとして、より自分らしく生きるためのありかたについてそれぞれの立場から考える機会を提供した。また、当日は参加者にマンモグラフィ検診無料クーポン券も配布し好評だった。

##### ② 成人病公開講座

大阪府立成人病センター、大阪成人病予防協会とともに4回開催した。6月9日は大阪がん循環器病予防センターで、その他の日は大阪府立成人病センターで開き、会場は毎回満席である。府立成人病センターの医師らが中心となり講師を務め、図や表などを織り交ぜて、分かりやすく説明している。

各回のテーマと講師は次の通り。

回数	開催日	テーマ	講師(敬称略)
68回	6月9日	最近の胃がん治療	藤原義之、上堂文也、坂井大介
69回	9月8日	生活習慣と成人病予防	中山富雄、田淵貴大、石川秀樹、福田也寸子
70回	11月10日	ここまで進歩した乳がん治療	玉木康博、小西浩司、金昇晋
71回	2月9日	家族性腫瘍とは？	玉木康博、中山貴寛、富田尚裕

### ③ がん予防キャンペーン大阪

「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会が主催するシンポジウムは、10月3日大阪市中央区大手前のドーンセンターで開かれ、約250人の参加があった。大阪対がん協会は実行委員会を構成する11団体(主催:11団体、後援:25団体、協賛:3団体)の一つとして15万円を負担した。構成団体はほかに大阪府、大阪市、大阪府医師会などで、事務局は大阪府保健医療財団が担当している。今年度のテーマは「正しく知ろう！子宮がん検診・乳がん検診と最近の治療法」で、3人の講師が、それぞれ「子宮頸がんの予防、診断、治療」「知って欲しい 乳がん検診のあれこれ」「最新の乳がん標準治療」について講演を行い、総合討論も行われた。大阪府のがん死亡率は全国的に見て高く、検診の受診率は最低レベルにある。この状況を少しでも改善することを期待して行われている。

### ④ ピンクリボンフェスティバル関西セミナー

(主催は日本対がん協会、大阪対がん協会、朝日新聞社)

ピンクリボンフェスティバルは、乳がんへの関心を高め、検診受診を呼びかける活動として平成15年に始まった。平成27年度は関西セミナーが10月18日、大阪市北区グランフロント大阪ナレッジシアターで開かれ、約360人の参加があった。テーマは「乳がんのために、ひとりぼっちで泣かないで 最新治療と心のケア」。3人の講師が「乳がんの最新治療とその選択」「婦人科がんを知ろう」「心と身体の緩和ケア」について講演を行った。その後、漫画家・エッセイストの柴門ふみさんを交えてのトークが行われた。

### ⑤ 遺贈セミナー

(主催は日本対がん協会、大阪対がん協会)

遺贈セミナーはがんと相続・遺贈についてのセミナーで、3月18日大阪市北区の阪急ターミナルスクエア17で開かれた。第1部は日本対がん協会 垣添会長が「がんと人間と社会」をテーマに講演。第2部は三井住友信託銀行の財務コンサルタント山極氏が「円滑な相続に向けて」を演題に話した。夫婦での参加も多く、がんと相続・遺贈についての情報を提供することができた。

### ▽「共催」「後援」行事

自治体、医療機関、患者団体などが主催するイベントに対して、協会が「共催」や「後援」をして支援した。協会ホームページの「講演会・イベント情報」欄にアップしたほか、朝日新聞大阪版のお知らせ欄「TOWN」への掲載などで広報PRに務めた。また、協会発行の小冊子「進め！がん防衛隊」を参加者に配布したイベントもあり、イベント支援を通じて他団体と信頼関係を築くことに努めている。

### 【がんに関する情報発信】

#### ① オリジナル小冊子などの配布

協会発行のがん啓発小冊子「進め！がん防衛隊」を配布し、多くの方のがんを知るきっかけにもらった。主催行事などで配布を続けている。また、医療機関からの問い合わせもあり、大部

数の場合は1部60円で販売を行った。また、がん検診を勧めるチラシを2種類作成し配布した。

## ② 協会ホームページ

インターネットによる情報収集の広がりに対応するため、平成22年5月に協会ホームページを開設し6年目を迎えた。内容の充実ときめ細かい更新で最新の情報提供に努めた。協会が主催・共催・後援するイベントの告知、がん研究助成奨励金事業の詳細を掲載するほか、決算書などの情報公開資料も開示している。

## ③ 事業概要・協会報

12月に「平成26年度事業概要」を発行した。26年度の事業内容や寄付者名簿のほか、がん研究助成奨励金受賞者も併せて掲載した。協会報は5月、8月、12月に発行した。

### 【日本対がん協会関連事業】

「日本対がん協会大阪府支部」としてがん征圧事業で連携、協力を進めた。

#### ① がん征圧月間

9月を「がん征圧月間」として日本対がん協会が展開する各種事業に参加・協力した。メイン行事として群馬県前橋市で開かれた「がん征圧全国大会」に専務理事が参加した。共通デザインの「がん征圧月間」と「啓発」の2種類のポスターを100枚製作し、大阪府医師会、大阪府看護協会など関係各団体へ送った。

#### ② 近畿ブロック会議

日本対がん協会と近畿2府4県の支部が、がん征圧事業の報告や意見交換をする近畿ブロック会議は10月7日、滋賀県のホテルボストンプラザ草津(滋賀県草津市)で開催された。事前に各支部から出された質問に他支部や日本対がん協会が答える形式で、検診に関する動向や各支部運営の管理面について話し合いが持たれた。

#### ③ 乳がん・子宮がん検診無料クーポン券の活用

日本対がん協会が発行しているマンモグラフィ検診無料クーポン券と子宮頸がん検診無料クーポン券を活用し、がん検診の受診率向上に取り組んでいる。クーポン券は主催・共催行事であるがん予防キャンペーン大阪、がん看護セミナー、市民公開講座などに参加された方にプレゼントした。

### 【患者支援活動】

#### 患者会ネットワーク

大阪府内の約20団体で構成する「大阪がん患者団体協議会(旧、大阪がん患者・家族連絡会)」の事務局機能を24年度から担っている。イベントのPRなど告知面でも協力した。

## (公2)がん研究助成：がんの研究、治療に当たる医師、看護師らへの助成

### 【がん研究助成奨励金】

新進の研究者・医療従事者(基礎・臨床・疫学は40歳未満、看護等は45歳未満)を支援する

「がん研究助成奨励金」事業は協会の目玉事業である。同事業は協会設立翌年の昭和35年度から始め、今回で56回目を数えた。27年度は「基礎」「臨床」「疫学」「看護等」の4部門で計15人の受賞者を選び、各30万円を贈呈した。今年度は計66人から研究成果の応募があり、外部の専門家など13人の選考委員が採点した結果をもとに2月22日に開かれた選考委員会(委員長＝堀正二・協会長)で受賞者を選んだ。受賞者は今回で延べ1674人、奨励金の総額は3億9430万円となった。

贈呈式は3月8日、大阪市北区中之島の朝日新聞大阪本社のアサコムホールで開かれ、堀会長が受賞者一人一人に賞状と奨励金30万円を手渡した。受賞者を代表し、基礎の部で受賞した木戸屋浩康さんがあいさつをした。

なお、この事業にはバイエル薬品、MSD から特定寄付の形で支援を得ている。

受賞者と所属は以下の通り(敬称略、50音順、平成28年3月末時点)

部門	受賞者氏名	年齢	所 属
基 礎	木戸屋 浩康	36	大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 助教
	木村 享	36	大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器外科学 助教
	今野 雅允	35	大阪大学大学院医学系研究科 消化器癌先進化学療法開発学 助教
	敷道 孝雄	37	大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科 特任助教
	松崎 健一郎	33	大阪大学蛋白質研究所 助教
	三吉 範克	39	大阪府立成人病センター 外科 医長
臨 床	大平 新吾	29	大阪府立成人病センター 放射線治療科 診療放射線技師
	笠島 裕明	32	大阪市立大学大学院 腫瘍外科 大学院生
	河嶋 厚成	38	大阪大学大学院医学系研究科 臨床腫瘍免疫学共同研究講座 特任助教
	杉村 啓二郎	38	大阪府立成人病センター 外科 医長
	宮崎 安弘	39	大阪大学大学院医学系研究科 外科系臨床医学専攻 外科学講座消化器外科学 助教
疫 学	森島 敏隆	38	大阪府立成人病センター がん予防情報センター企画調査課 主査
看 護 等	嘉戸 怜子	35	大阪大学医学部附属病院 看護部 がん放射線療法看護認定看護師
	四方 文子	43	大阪医科大学大学院 看護学研究科 博士前期課程 大学院生
	濱口 佳子	39	堺市立総合医療センター 副師長

選考委員は以下の13氏に委嘱した(敬称略、50音順)

部門	選考委員	所 属
基礎	大道 正英	大阪医科大学医学部教授
	加藤 菊也	大阪府立成人病センター研究所疾患分子遺伝学部門長
	金田 安史	大阪大学大学院医学系研究科教授
	螺良 愛郎	関西医科大学医学部教授
	森井 英一	大阪大学大学院医学系研究科教授
臨床及び疫学	荒川 哲男	大阪市立大学医学部長
	今岡 真義	NTT西日本大阪病院総長
	奥野 清隆	近畿大学医学部附属病院病院長
	木下 博明	大阪市立大学名誉教授
	松浦 成昭	大阪府立成人病センター総長
看護等	荒尾 晴恵	大阪大学大学院医学系研究科教授
	今中 基晴	大阪市立大学大学院看護学研究科教授
	田中 京子	大阪府立大学看護学部教授

## 《会員向け事業》

主に賛助会員向けの特典として協会が進めてきた事業について、公益財団法人移行後は「その他の事業(相互扶助等事業)」として、公益目的事業と区分している。27年度も以下のような会員向け事業を継続実施した。

### (他1) 賛助会員サービス: 定期的な情報の提供・がん検診の奨励と援助

#### 【情報の提供】

##### ① 協会報

協会報は5月、8月、12月の3回発行した。各1200部印刷し、会員を中心に配布した。27年度1年間の内容は以下の通り。

発行月	主 な 内 容
5月号	平成26年度がん研究助成奨励金贈呈式・受賞者紹介、大阪のがん診療拠点病院、会員に皆様へのお願い、がん検診サービス券配布
8月号	がん征圧月間、役員名簿・評議員名簿、がん検診はなぜ必要か、イベント情報、秋のがん検診案内
12月号	平成27年度がん研究助成奨励金の募集内容、秋のイベント報告(成人病公開講座、がん予防キャンペーン大阪、がん看護セミナー、ピンクリボンフェスティバル関西セミナー)、今岡氏の日本対がん協会賞受賞、来春のがん検診案内

## ②事業概要

「平成26年度事業概要」を12月に発行した。1200部印刷し、会員のほか、関係機関に郵送した。A4判で42ページ。従来通り事業報告、決算報告、寄付者名簿などを掲載、がん研究助成奨励金の26年度受賞者15人の研究内容を8ページにわたって紹介した。普及啓発活動の紹介では、協会の主催・共催・後援イベントの一覧表を載せた。

### 【がん検診の案内・援助】

#### ① 春・秋のがん検診

会員向けがん検診は春と秋に行っており、春(4月～5月)は大阪がん循環器病予防センター秋(10月～11月)は大阪府医師会保健医療センターで、胃、大腸、肺、乳腺、子宮の5部位について実施された。春の検診は会報12月号、秋の検診は8月号で案内、受診の勧奨に努めた。検診は27年度1年間では延べ171人が受診した。

検診への協会の負担は、春は検診受診票の送付切手代や印刷費、秋は検診施設の医師会保健医療センターへの10万円の助成金である。

#### ② がん検診サービス券

賛助会員への新しいサービスとして23年度から始めた「がん検診サービス券」(千円分)の発行・配布を27年度も継続して行った。検診施設でがん検診を受診し、千円以上の自己負担があったことを証明する領収書とサービス券の送付があれば千円分のクオカードと引き換える。サービス券の利用により、がん検診受診率の向上に寄与する狙いもある。新規入会者を含め賛助会員の全員にサービス券を配布した。サービス券の利用者は27年度の1年間で60人(26年度は56人)。

## 《協会の運営》

### 【決算および寄付の状況】

#### ① 27年度末の正味財産について

27年度末の正味財産額は2118万円で、前年と比較して9万円の増加となった。収支は、経常収益(収入)が1896万円、経常費用(支出)が1847万円。正味財産の増減の内訳は、一般正味財産は49万円の増加、指定正味財産は、がん征圧事業積立資金を40万円費消しており40万円減少した。差し引き、正味財産は9万円増加した。

過去3年間の正味財産の増減は24年度(96万円増加)、25年度(329万円増加)、26年度(17万円減少)という結果であり、27年度は若干ながら増加に転じた。

#### ② 受取寄付金とその内訳について

平成27年度の受取寄付金(会費を含む)は1850万円で、前年度に比べて75万円増加した。過去3年間の寄付金は24年度(前年比246万円増)、25年度(前年比205万円増)、26年度(前

年比498万円減少)という結果であり、27年度は一般寄付金(会費を含む)が増え、増加に転じた。

寄付金の内訳は、賛助会員からの会費収入が463万円、会員数は725件、前年度に比べそれぞれ6万円の減少、28件の減少となった。会員のうち、維持会員(年会費2千円以上の個人)は613件、特別会員(同1万円以上の個人または法人)は112件。うち、新入会員は8件、23年度から始めた法人特別会員(同3万円以上の法人)は14件だった。高齢などの理由で維持会員の退会があり、会員数の減少が続いている。一方、一般寄付は1387万円、82件で、前年度に比べそれぞれ81万円、7件の増加した。

#### 【収入増に対する取り組み】

##### ① 特定寄付の確保

がん研究助成奨励金事業については、2社から計230万円の寄付金を得た。

##### ② 募金型自動販売機

飲料メーカーと連携し、「がん征圧支援」を掲げる自動販売機の設置に取り組むことで、協会の収入増と知名度アップをめざしている。27年度は大阪市淀川区の学校法人大阪滋慶学園に新たに設置され、合計9台となった。募金型自販機を通じた収入は年間ベースで約180万円に上っており、協会にとって、安定的な財源になっている。

以上